228

特251
299

非常時局と雑誌の重大使命

始

特251
299

非常時局と雜誌の重大使命

大日本雄辯會講談社

目次

一　戰に勝つ必要條件……一
何故獨逸は世界大戰に敗けたか……一
大衆に解り易い雜誌がなかつた……三
二　長期抵抗力と第四國防……四
最後の勝敗を決するものは何か……四
國策媒體としての雜誌……五
國民大衆の心に入り易い讀もの……七
三　一億一心は何に依つて可能か……九
國家の安定と傳統精神……九
日本人の心の故郷……一〇
心の奥に浸み透るもの……一二
四　外國の宣傳に對する豫防藥……一四
日本の最高道德を傳ふるもの……一四

精神を洗ひ清める力……一五
大衆文藝とその威力……一六
五　皇軍將士の强さは何處から來るか……一八
祖先の精神がしみ込んで居る……一八
戰線の勇士を活氣づける讀もの……二〇
雜誌は精神彈藥……二一
六　國民活動力の源泉……二五
世界大戰がはつきりと敎へたこと……二五
氣散じの秘藥……二四
長期抗戰に必要な『養心大臣』……二六

一、戰に勝つ必要條件

◇何故獨逸は世界大戰に敗けたか

國家の非常時に際しては、爲政者の心と國民大衆の心が最も緊密に繫がつてゐなければならぬといふことは云ふ迄もないことである。その如何が國運の興隆と頓挫とを決する重要なる條件であることは、この四半世紀の間に於ける獨逸の例から見ても明らかなるところである。

『世界大戰に於て獨逸國民が長期の緊張に耐へ得なかつたのは、爲政者が國民の精神的抵抗力を强めることができなかつた爲めである』

これは今日獨逸の大衆敎育の方面で指導者の一人と見做されてゐるG・

クルト・ヨハンゼン博士が、當時の國政を反省して述べてゐる言葉であるが、尙ほ博士の言ふところに據ると、獨逸の爲政者は國民大衆の精神を强めることを等閑りにしたわけではない。たゞ大衆の心に入る道を知らなかつたのである、また大衆の心へ入る媒を有つてゐなかつたのである。

その頃の獨逸官邊の人の演說は、議會に於ても、公衆を前に於てする時も、一樣に大學の講義の如くであつた。一部の知識ある人々には了解されたであらう、然しその心を動かすといふところまではゆかなかつた。まして一般大衆には馬の耳に念佛であつた。『その頃は眞の演說といふものが獨逸に無かつた。大衆に向つて、簡單明瞭に、解り易く、力强く、熱烈に語るといふ底の演說は卑俗のことゝして輕蔑されて居つた』とヨハンゼン博士は言つて居るが、これは學識偏重の弊風から來たことである。學識尊重

はその頃の獨逸の强みであつたが、それが過ぎて、理智のみが尊ばれ、情が蔑ろにされた。演說を輕蔑した獨逸人は、文章を通して大衆の心に入る大衆雜誌を同じく卑俗のものとして輕視した。

◇大衆に解り易い雜誌がなかつた

少數の大衆雜誌はあつても、その影響力は微々たるもので、讀者も少く、敵國イギリスのノースクリフ卿が指揮してゐた雜誌群の如き、國民大衆大部分の心を摑んでゐるといふ樣な有力な雜誌は有つてゐなかつたのである。學識偏重の風は、知識人の雜誌のみを偏愛する傾向を釀成した。斯くて獨逸は、國民大衆に向つて爲政者の說くところを解り易く、且つ繰返し繰返し傳へてはつきりと、呑込ませるところの媒を缺いて居た。軍人や學

者や教育者や宗教家の教へを解り易く、且つ繰返し繰返し傳へて國民大衆の心の底迄染み込ませるところの媒を缺いて居た。

されば爲政者、指導者がどんなに躍起となつても國民の精神的抵抗力を十分に強めることが出來ず、遂に國民は腑拔けとなり、そこへ赤化思想が染み込んだから、國家組織は崩壞して、敗北となつたのである。

二、長期抵抗力と第四國防

◇最後の勝敗を決するものは何か

獨逸國民を腑拔けにしたものは、食糧その他の不足に對する恐怖であつた。實際に不足して困つたといふよりは、これから先どんなにか困るであらうといふ恐怖であつた。實際より先に恐怖で參るか、そこを飽くまで頑張り拔くか、これが常に勝敗、成功失敗の分目であつて、精神力の强弱、精神的武裝の有無若くは厚薄が最後の勝敗を決定する所以となるのである。獨逸は陸、海、空に於て敗れず、所謂第四國防、卽ち精神國防に於て敗れたのである。鋼鐵の武器は優秀であり、豊富であつても精神武器、精神彈藥が不適當であり、不足であつたのである。

ヒツトラー氏以下今日の獨逸國民指導者等は、この點に目覺めた人々である。

◇國策媒體としての雜誌

『獨逸が食糧の不足に依つて大戰に敗れたと考へてゐる唯物論者等は獨逸

を救ふことは出來ない。獨逸國民の精神を鍛へ直す者こそ獨逸國家を建て直すことが出來るのである』

ヒットラー氏はその著書『我が闘爭』の中で斯く叫んで居る。ヒットラー氏は、知識人のみを相手にして話してゐた舊獨逸帝國の爲政者等と違ひ、直ちに大衆の懷に飛び込んで、素直に、簡潔に、解り易く、力强く、熱烈に大雄辯を以てその所信を說き、且つ獨逸民族に傳統精神を叩き込んだのである。以下の指導者も同樣であつた。相手は大衆であつた。大衆の心の中へ飛び込んだのであつた。同時に雜誌、新聞、書籍も、舊時代とは逆に、それらの大部分を擧げて、大衆向きのもの、大衆の心に入るもの、爲政者と大衆との心の媒となるものにさせたのである。

斯くて國民大衆は爲政者の說くところに無關心でゐられなくなつた。熱

を以て說くが故に熱を以て傾聽する、熱を以て書くが故に熱を以て讀む、解り易く書いてあるから皆が呑み込む、爲政者は自分の背後に全國民大衆の絕對支持が在るといふ大自覺と大確信が得られる、斯くてこそ僅か二十數年の間に多くの國策を縱橫無盡に遂行して、國家を建て直したるのみならず、世界大强國の一たらしむることが出來たのである。背後に冷眼を以て見る批評的な知識階級があり、敬遠的に無關心なる大衆があるといふことを自覺せざるを得なかつた舊獨逸の爲政者とは月鼈の違ひである。

◊國民大衆の心に入り易い讀もの

小社初代社長野間淸治氏は明治四十三年、雄辯を以て國家の興隆に資したいといふ念願の下に、雜誌『雄辯』を發行、國家各方面の指導的地位に

在る方々の演說を掲載すると共に、演說者の精神修養並に演說技能の錬磨に供することを以てこの雜誌の使命とした。

次いで明治四十四年には、日本の傳統精神を大衆の心に最も入り易く語つてあるところの講談を本體とする『講談倶樂部』を創刊致した。

その後、當時主として知識人のみを目指して書いてゐた一般文學者、小說家にお願ひして講談師が昔から爲して來た如く大衆の心に入る樣な精神と文章とを以て書いて貰つた。これが卽ち我國新大衆文藝の發祥と成つたのである。同時に國家各方面の指導者、教育家、宗教家の方々にも、夫々の敎へを大衆の心に入る樣に解り易く、力强く、熱烈に語つて頂いたり、書いて頂いたりするやうに成つた。これらの內容が大衆の老若男女の別や知識範圍に從つて、『キング』『婦人倶樂部』『富士』『現代』『少年倶樂部』『少女

倶樂部』『幼年倶樂部』及び『講談社の繪本』と成つたのである。

三、一億一心は何に依つて可能か

◇國家の安定と傳統精神

大八洲にひろがる一億の心を一團に結ぶその繫ぎ糸は何であらうか、それは三千年の傳統精神である。嵐の世界に立つ日本を微動だもさせないその安定力は何であらうか、それは三千年の傳統精神である。我國が八紘の他民族を同化導びかんとするその感化力は何であらうか、それは三千年の傳統精神である。我國が他民族の知識技術を取入れて、而もその虜とならず、之を皆悉く道具とし召使ひとして使役するその主なる心は何であらう

か、三千年の傳統精神である。國家非常の際に、爲政者、指導者は何に依つて國民大衆の精神力を強きが上にも強く、旺盛なるが上にも旺盛ならしめんとするであらうか、申す迄もなく國家の傳統精神に依つてである。

◇日本人の心の故郷

私共はこの機會を以て小社より發行する諸雜誌の主要なる部分を占めて居る大衆文藝が、我國の傳統を養ひ强める上に如何に大きな働きをして居るかに就いて、卑見を述べさせて頂き度いと思ふのである。私共が大衆文藝と呼んで居るものは、我國に古より傳はる萬邦無比の美しい傳統精神、風俗、習慣家庭制度を核心とし、之を興味あり面白く大衆の心に入る樣現代の大家に取り扱つて貰ひ生れたところの新しい時代の小說を主とし、講

談、落語等をも含めて云ふのである。

講談の發生を稽ふるに、戰國武士の慰安の爲に演ぜられたのが抑〻の初りで、これが次第に町民、農民の間にも受けるやうになつたのである。斯樣に講談は概して眞劍な生活を營む、眞面目な人々のために生れ、左樣な人人の中に育てられて參つたものであるから、一部有閑の人達のなぐさみとなる藝術と違つて、聽いても讀んでも、まことに生きのよいものである。健康、明朗である。また講談を愛好して來た大衆はむづかしい學問や外來の思想に囚はれることが少く、心が複雜になつてゐない人々であるから、その人々に受ける講談の精神は純粹の日本精神である。日本の傳統精神が脈々として生きて居る。私共は講談の中に心の故郷を見出すのである。私共は講談を讀んで、その中の人物が勇む時に眞に勇み、その泣く時に眞に

泣くのである。外來の考へ方で書いた文學では泣けないのである。心がそれだけ強く動かされないからである。心の源がちがふからである。

◇心の奥に浸み透るもの

講談の中には忠義の極致がある。親孝行の極致がある。即ち自分を殺して衆を救ふ義俠の極致がある。最も厚い義理がある。最も厚い人情がある。これが日本人の最良の心でなくして何であらうか。これが異國人の日本を最も畏敬するところでなくて何であらうか。

大衆文藝は熱涙を以て日本の最高の道德、忠義と孝行を語る。大衆は熱涙を絞つてこれを讀む、そのとき道德は心に浸み透るのである。冷靜な分析や批判によつてどうして道德を養ひ得よう。大衆文藝はまた人々を哄笑

せしめ、心の殼を破つて、そこから義理や人情の奥深い理りを差し入れる。それからまた面白い話の間に、社會生活を圓滑に進めるための油である禮儀とユーモアを教へてくれる。知らず識らずの間に處世の微妙な常識を授けてくれる。かうしたことは學校ではなか〳〵教へて貰へない。それは無理もないことである。何故ならば、今日の學校は多くの時間を知識や技能の修得に向けなければならないからである。學校に於て、また家庭に於て形造られた精神の骨格に、脈々たる生きた血を通はせ、美しい、逞しい肉を育てるものは實に良い大衆文藝である。

斯樣にして大衆文藝は眞の日本國民を作ることと、圓滿な社會人を作ることに大きな助けを致して居るのである。言ひ換ふれば、日本の精神的傳統を繼承し、維持し、强化する上に大きな助けを致して居るといふことに

なるのである。精神的傳統が繼承されるとき、國家社會は健全である。それが維持されて居るとき、國家は安定し、强化されるとき、國家は飛躍し發展するのである。

四、外國の宣傳に對する豫防藥

◇日本の最高道德を傳ふるもの

國家を一本の樹木に譬へ、戰爭を大風に譬へる。その根が强ければ樹木は頑として堪へ得るのであるが、根の張り方が弱い時には吹き倒されてしまふ。根はすなはち國の傳統である。世界大戰に於て獨逸國民が動搖し、英國の宣傳にとらはれたり、又は共產主義者にそゝのかされたりしたのは

傳統の根が弱かつたからである。この故に『傳統は敵國の宣傳に對する最も强力なる豫防藥である』といはれるのである。當時の獨逸に於いては、教育は智能一點張りであつて、有効なる傳統精神修養の機關がなかつたのである。そこには眞の大衆文藝といふものはなかつた。精神分析の文藝、變態性の文藝が跋扈して居つた。

◇精神を洗ひ清めるカ

これらの文藝は物質文明や科學文明の生んだ子であつて凡そ獨逸の傳統精神とは血緣の淡いものであつたから、人々の精神を洗ひ清める力もなく、社會の道德を維持するどころか反對に腐敗させて居つたのである。戰後獨逸が生れ變ると共に、大衆文藝、卽ち傳統精神の文藝が誕生した。今の獨

逸文學者たちはどういふ事をして居るかと云ふと、第一は獨逸各地の民話を集めることである。民衆の間に口から口へと語り傳へられて來たその民話の中には、理智に囚れない以前の獨逸の潑剌とした魂が生き殘つて居るのである。第二にはこの民話の傳統精神と語法とを現代に生かして新しい民話、卽ち大衆文藝を作ることである。興味深いことに、今日獨逸の文學者等は日本の講談師の如く、各地を遍歷して自作の物語を老若男女の聽衆に讀み聞かせて居るのである。

◇大衆文藝とその威力

我國では早くから大衆文藝の眞價が認められてゐた。畏くも明治天皇には明治十九年三月一日、鍋島侯邸に行幸遊ばされた御時、桃川

如燕及び松林伯圓を御前に御召出しになつて講談を御聽講遊ばされた。これは決して二人の話術の巧妙な爲めのみでなく、講談の中に日本精神が生生と傳へられて居ればこそこの光榮に浴することが出來たのであつた。昭和の御代になつて御催しに相成つた武道天覽試合の際に於かせられても、特に講談師に拜觀を御許になつたのも之が爲めであると拜察申上げるのである。乃木將軍が日露の役に、講談師燕若を從軍させて大變大事にしたのも之が爲めである。大隈侯は日露戰爭で日本が勝つたのは講談や淨瑠璃で日本精神が培はれてゐた爲めであるとまで言つて居る。

大衆文藝の中に眞の日本人の氣持が現れてゐるのである。日本人としての理想的な人物が現れてゐるのである。或は理想化されて居る、日本人は何を善しとし、何を惡しとするかが現れて居るのである。何を適當とし、

何を不適當とするかゞ現れてゐるのである。日本人の美點長所が現れて居るのである。眞の日本人の心が現れて居るのである。

一口に申せば義理人情が大衆文藝に依つて養はれて居るのである。人が難に遭へばかけつけて世話をするとか、死ねば香奠を贈るとか、全く義理堅い、人情深い、この義理人情が突き進んで忠君愛國の精神となるのである。その義理人情の大部分は大衆小説から教へられたものではあるまいか。

五、皇軍將士の强さは何處から來るか

◇祖先の精神がしみ込んで居る

皇軍將士のあの强さ年と共に愈〻强さを增して來るあの限り知れぬ强さ

は何處から來たのであらうか、申す迄もなく御稜威の御力である、完備徹底せる軍隊教育の力である。又一面に於て大衆文藝の中から知らず識らず魂の底に浸み込んでゐた武勇、任俠、大義、純情が力强く甦つて來て居ると云ふことも與つて力あるのである。楠木正成、水戸烈公、宮本武藏、荒木又右衞門、乃木大將等の精神が今全支の野に戰つて居るのである。

御國の傳統を養ふことは小社の生命である。小社は創業の始めから、大衆文藝に依り、修養の物語りに依り、御國の傳統であるところの皇室尊崇、敬神、忠義、愛國、義理、孝行を基にして發する一切の道德、これを繰返し繰返し休むことなく、撓むことなく養ひ續けて來た。三十年間、時流の如何を顧慮することなく一すぢにこの道を守つて來た。教育はその說くところ確乎不動にして、之を反復繰返すときはじめて力となることを信ずる

が故である。小社は大正年間に我國に襲來した危險思想より大衆を健全に守り得たことを過去に於ける最大の誇りと致すものであるが、今や有史以來の重大なる秋に當り、祖國を磐石の泰きに置くことを小社の國家より授けられたる任務と致し、各方面指導者の方々の限りなき御支援の下に、祖國傳統精神の涵養强化の爲め、粉骨碎身、奉公の誠を致し度き念願である。

◇戰線の勇士を活氣づける讀もの

凡そ活動的なる國民程健全な慰安を必要とするものである。慰安は活動力の源泉なるが故である。小社は讀物を以て大衆を慰安することを使命の一つと致して來たのであるが、今日長期戰下の大衆を愈〻元氣潑剌明朗ならしめんが爲め、慰安を目的とする讀物にも一層の努力を注いで居る。

殊に戰場の勇士が興味深い讀物に依つてどんなに慰安され、激勵されるものであるかは、勇士の方々が慰問袋に入れて送られた小社の諸雜誌を讀んで、夫々の雜誌編輯局に寄せられる多數の手紙から推して知られ、誠に感激の至りに堪へない次第である。

曩の歐洲大戰に於いても、各交戰國はその軍隊の慰安と精神の保健に對する雜誌、書籍の價値を深く認識すると共に、その働きを重視し、之が配給の爲めに大規模にして且つ完備せる組織を設けたのである。

◇雜誌は精神彈藥

わけても英國に於いては、最高指揮官ダグラス・ヘイグ將軍が戰線から故國に一書を寄せて、

『興味深い讀物が戰鬪員の慰安と、精神の保健の上に如何に價値あるものであるかは、今更余の喋々を要しないところである。故に國民諸君は雜誌及び書籍を盛に購入して貰ひたい、出來得れば今迄よりも一層多く購入して貰ひたい。さうして讀んで樂しんでしまつたら、どし〳〵戰線へ送つて貰ひたい』と訴へたので、英國全土の郵便局には雜誌と書籍が殺到し、その時から戰爭の終るまで各地の郵便局は『精神彈藥』の兵站基地となつたのである。米國の碩學ヴアン・ダイク博士は、大戰中雜誌及び書籍を『精神彈藥』と呼んだ最初の人であるが、それに就て次の樣に言つて居る。

六、國民活動力の源泉

◇世界大戰がはつきりと教へたこと

『大戰が世界に向つてはつきり教へたことの一つは、勝利は單に大軍によつて獲得されるものではなくして、軍隊の中の廣く大きな、强く雄々しい精神によつて獲得されるものだといふことである。軍隊の士氣は、武器をして、最高度の能率を發揮せしめるところの隱れたる力である。而して士氣を高く維持する上に、何より重要なことは、軍隊に直ちに讀物を供給して大戰の準備期間中に、或は塹壕に於て次の戰鬪を待つ間に、或は病院に於て再び戰線に立つべく心身の力を取戻さんとしつゝある間等に之を讀ま

しめることである。凡そ人生に於ける最上の醫藥と強壯劑は、友情と、良書と、音樂の三つである。私は之等の力を知悉し、そして之等の力に信頼を捧げてゐる』

米國では派遣軍に對して毎日十噸（二千七百貫）の雜誌及び書籍を發送したといはれて居る。

◇氣散じの秘藥

また英國の桂冠詩人ロバート・ブリッヂス氏は『戰爭圖書館』事業後援の爲めオックスフオード大學で次の如く演說して居る。

『我々は誰しも苦惱艱難にある時は氣散じの中に慰藉を求める。而して我我の用ふる氣散じの一般的な秘藥は物語の本である。この秘藥は戰場の最

も酷烈な試錬の下、或は死の影に於て一層有效であることが證明されてゐる。故に輕快な興味深い物語の載つてゐる雜誌や書籍は兵士にとつて絕對不可缺のものである』

今度の英佛對獨逸の戰爭が始つてから、曩の大戰に於て、苦い經驗を嘗めた獨逸は勿論、英、佛共に國民精神の昂揚、長期抗戰力持續と云ふことに對して色々の方法を講じて居る、就中健全なる慰安、娛樂を與ふると云ふ事に就いては最も心を碎いて居る。

英國の歷史家、評論家で歐洲大戰の際飛行將校として參戰殊勳を樹て、現在ロンドン・ニユース誌上に椽大な筆をふるつて居る、アーサー・ブライアント氏は去る九月三十日附の同誌上で左の意味のことを言つて居る。

◇長期抗戰に必要な『養心大臣』

『今度の戰爭を決着迄戰ひ拔くには、我等がこれまでに經驗した中の最も長い、そして最も骨の折れる仕事であることを覺悟しなければならないが、——最後の勝利を得るための主要なる力は我國の金の貯藏でもなく、我國の物質資源でもない、それは我國民の快活なる氣分と和合と不屈の意氣とである。內閣大臣諸公が戰爭に向つて指導しつゝある、この頑强な忍耐强い我國民は物質の支給と共に精神の支給を必要とすると云ふことを一時も諸公に忘れないやうにして貰ひ度い。來るべき長い、味氣ない歲月の間には、國民はその肉體よりも、却つて心に多くの養ひを必要とするやうになるであらう。無論こんな機關が設けられようとは思はぬが、養心大臣

(Minister of Inspiration) といふものを置きたいやうな氣がする』云々。ブライアント氏はこの『養心省』で働く人々をば、小說家、詩人、演說者、俳優、道化師（落語家や漫談家に相當する）及びその他民衆に娛樂を提供する人々を擧げ、鹿爪らしい講演者や、形式だけで中身のある仕事をしない人は入れてならないと言つて居る。

以上申述べ來りたる諸點に就き、私共一同は小社に課せられたる任務の重大なるを痛感致し、戰線勇士の心を己が心として、天下諸賢の御指導の下に、三十年間野間淸治氏に依つて養はれた精神と經驗を傾け、その雜誌を益〻優秀なるものと致し、非常時下に於ける國民大衆の精神力を愈〻鞏固且つ旺盛ならしめ、目的達成に向つて全力を捧げる覺悟である。

396
509

昭和十四年十一月十二日印刷
昭和十四年十一月十八日發行

（非賣品）

編輯兼發行人　川村新次郎

東京市小石川區諏訪町五十六番地
印刷所　株式會社　常磐印刷所

發行所　東京市小石川區音羽町三丁目十九番地
株式會社　大日本雄辯會講談社
（振替口座）東京三九三〇（本社）六六二九（代理部）

不許複製

終